湊小

自分の考えを豊かに表現し、ともに学び合う子どもの育成

～言語活動の工夫を通して～

（３年計画の３年次）

校長　　音　喜　多　　勧

１　研究主題について

本校は、昨年度、「自分の考えを豊かに表現し、ともに学び合う子どもの育成」を研究主題とし、教科を４教科（国語・社会・算数・理科）に広げて、「話す・聞く」を中心に言語活動のさらなる充実を図りながら、次のような手立てを工夫した。

〇基礎・基本のさらなる定着
〇自分の考えたことを表現させる方法
〇問題解決のための交流の場の設定

その成果として次のようなことが挙げられる。

・導入にゲームやクイズ、センテンスカード、視覚に訴える資料、既習事項の確認を取り入れることで、意欲的に問題解決に取り組むようになった。
・ペア・３～４人グループなど、授業のねらいに応じて話合いの場を設定した。話型を提示してパターンを身に付けさせる話合いを繰り返し行うことで、自分の意見を伝えることができるようになってきた。
・キーワードや図、順序を表す言葉などを板書し、意識して使うようにさせたことで、話合いや説明のときに視点がずれないようになってきた。

その一方で、意見を話す、聞くことはできるようになってきたが、自分の考えと比べながら聞く、聞いたことをしっかりと理解して自分の考えを深めているかといえば個人差がある。各教科において、基礎・基本を徹底させ、話型の提示などパターン化し、話すことに抵抗がないようにさせていきたい。また、話合い活動の中で、分かるところまで発表したり付け足して説明したりすることや友達の考えを理解して言い換えて説明するなどして全体で考えをまとめていけるような学び合いをできるようにさせていきたい。

そこで、今年度も上記の研究主題を継続して設定し、日々の授業実践において言語活動の工夫をすることによって、「自分の考えを豊かに表現し、ともに学び合う子ども」の育成を目指すこととした。

２　研究のねらい

自分の考えを豊かに表現し、ともに学び合う子どもを育成するために、自分の考えが相手に伝わるように話す指導や、相手の伝えたいことを考えて聞く指導を工夫することによって、基礎・基本が定着するとともに、思考力・表現力が高まることを実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

相手に伝わるように話したり正確に聞いたりする活動の工夫をすることにより、基礎的な知識・技能が身に付き、自分の考えを的確に表現できる児童が育つ。

４　研究内容

(1) 児童が意欲的に問題解決に取り組むようにするための工夫
　ア　「問い」や必要感をもたせる手立て
　　①課題提示の工夫
　　②発問の吟味
(2) 児童同士が積極的に関わる学び合いができるようにするための工夫
　ア　話合いのもたせ方の工夫
　　①授業のどの場面で話合いをさせるか
　　②ペア、グループ、全体
　イ　説明のさせ方の工夫
　　①図や資料を使って説明する

②用語（既習事項、教科の専門用語、本文からの引用など）を使って説明する
③理由や根拠を明確にして説明する

ウ　話合いの仕方の工夫
①言い換えて話す
②付け足して話す
③質問したり聞き返したりする
④相手が話したことを受けて自分の考えを話す

エ　振り返り・評価の工夫
①考えを伝える
②考えを聞く
③考えを深める

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・題材名	授業者・指導助言者	主な内容
6	28	第１回授業研究 ６学年 算数 「面積」	教諭　三浦　圭太 指導助言者 八戸市総合 教育センター 副所長　松橋　祐哉	円弧を含む複合図形の面積の求め方について、式を先に提示し、式からどのように考えたのかを半具体物を使って考えさせ、グループ、全体で説明させたことで求め方の理解を図った。
11	30	第２回授業研究 1学年 国語 「じどう車くらべ」	教諭　出貝　小百合	トラックの模型を実物投影機で提示することによって、意欲をもたせた。つくりとしごとの文末に着目させ、サイドラインを引かせることで、自己決定させていた。

(2) 一般研修

月	日	内　　容	
6	8	特別支援教育研修会	講師：本校難聴学級担任　教諭　中野　　恵
6	29	体育実技研修会	講師：本校　　校長　音喜多　勧
9	7	絵の鑑賞会（描画指導法・絵の審査）	講師：本校図工部
9	26	クロームブック活用研修会	講師：旭ヶ丘小学校　　教諭　佐々木　俊介

６　研究の成果

(1) 導入で、模型や図、写真や作品などを提示し、視覚的に捉えさせたことにより、主体的に問題解決に取り組むことができるようになった。
(2) ペア・３～４人グループなど、授業のねらいに応じて話合いの場を多く設定することにより、関わり合うことへの抵抗感が少なくなり、活発に意見交換や学び合いができる児童が増えた。
(3) 説明の仕方の見本や話型を提示し、繰り返し話す練習をさせたことで、説明する力がついてきた。また、友達の意見を聞いてそれを受けて自分の考えを話すこともできるようになった。

７　研究の課題

(1) 友達の意見に対して、どの部分が大事なのか判断できない児童が多い。自分の考えと比べたり友達の考えを理解しながら聞いたりする力は、さらに指導が必要である。また、自分の考えを組み立てて話すことが難しいため、今後も、話型の提示や提示されたキーワードを使って話すなど繰り返し取り組んでいく必要がある。
(2) わかったことを話したりノートにまとめたりすることはできるようになったが、後の学習につながるような疑問や自分の考えの変容に迫るような振り返りはまだまだである。視点を与えて振り返りをさせるなどの指導が必要である。　（記入者　　中川　彩子）